

平成29年度第2回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

1 テーマ：岡山で働きたいと思ってもらえるために

2 日時：平成29年8月10日（木）

3 場所：岡山大学

4 参加者：公募で募集した県内・県外出身で県内大学に在学中の学生、県内出身で県外大学に在学中の学生：28名

5 知事講義

知事から、大学生の県内企業への就職状況や、県の就職支援の取り組み、課題などについて説明。

6 発言内容等

【就職の検討状況、希望就職地域やその理由等】

- ・岡山は住みやすいので、岡山で考えている。
- ・住めばどこもいいところだが、特に首都圏は岡山に比べて魅力的で、首都圏に惹かれてしまう。
- ・一度、東京で生活すると、余暇の過ごし方や生活のリズムも東京に慣れてしまう。首都圏での就活は負担が少ない。
- ・都市圏に憧れがあり、1年生だが既に神戸での就活を視野に入れている。
- ・岡山は災害が少ないので、岡山で考えている。
- ・岡山出身だが、岡山はやっぱり都市圏に比べると魅力が少ない。
- ・既に東京で内定をもらっている。岡山での就活も考えたが、就職したい県内企業が見つからなかった。
- ・やりたい仕事が岡山にはないので、県外に出るつもりだ。
- ・岡山（特に県北）はインフラが整っていない。何をするにしても公共交通機関の時刻表に縛られてしまい、とても窮屈だ。
- ・東京で就活しているが、やっぱり地元岡山で就職したいと思うようになった。

【行政にしてほしい支援や取組など】

- ・就活活動をしているが、面接を受けて、初めて自分の向き不向きが分かることがある。就職活動の際に気づくのではなく、キャリア教育をもっと充実して、子どもの頃から、自分の進みたい道を考えられるようにするべきだと思う。
- ・インターンシップに参加しており、キャンパスウェブを使用しているが、存在を知らない友人も多い。
- ・多くの企業のインターンシップに参加したいが5日以上と拘束される時間も長いため、負担が大きい。インターンシップに参加経験のある企業だと企業説明会なども参加しやすくなる。もっと気軽にインターンシップに参加できるよう

短い期間でのインターンシップも充実してもらいたい。

- ・大学に入る前や大学に入った後の生活はイメージしやすいが、就職となると、どんな仕事をするか、どこで働くかというイメージがわからない。県内企業で働くことをもっとイメージしやすくなるようにしてもらいたい。

- ・理系の大学院生だが、就活時期と論文作成・学会発表の時期が重なるので、負担が大きく両立が難しい。

- ・島根県の友人は、島根県での就活の際に交通費を負担してくれる制度があるようだが、岡山県でもそういった制度があれば県外からの就職が増えるのではないか。

- ・教育学部で養護教諭を目指している。一般企業は1年目の社員には先輩の社員が指導をしてくれて、時間をかけて一人前になっていくと思う。学級の担任教諭は、学年団や他の先生などのフォローがあるが、養護教諭は学校に一人しかいない場合もあり、1年目でも一人で業務を担当しないといけない。責任がある業務であり、指導してくれる人がいないことは不安が大きい。

- ・中小企業は社員が少ないことから、一人の社員が人事、広報、経理などいろいろな仕事を抱えていて、企業のPRが十分に出来ていないことがあると思う。とてもいい製品を作っている中小企業なのに知られていない。そんな企業のPRを行政が支援するなどしてみてもどうか。

- ・徳島ではワイファイを使って、起業を支援している取り組みもしている。県としてそういった支援を行うことは考えてもいいのではないか。

- ・高校の時から、もしくは、もっと早い段階から起業家という選択が思い浮かべられたらいいなと思う。県独自で起業家を育成するような施策を考えてはどうか。

- ・高校では、優秀であればあるほど、県外大学（特に難関校）に進学しなさいと言われる。生徒自身が「岡山がいい」「岡山に残りたい」と思っているのに、先生は岡山に残ることが悪いというような言い方で県外大学を進めてくる。優秀なら外に出ろという教育ではなく、地域の人達との連携や伝統産業を学ぶなど、岡山に対する郷土愛を育むような教育をもっとやるべきではないか。

7 知事まとめ

- ・本日は、皆さんの生の声をお伺いさせていただいた。今後の、県の施策に生かさせてもらいたいと思う。

- ・就職する前にどれだけ考えても、就職した後に見える景色は違う。できるだけインターンや先輩の話を聞くなどして、情報を集めて、できるだけ良い決断をしてほしい。選択肢として岡山に戻ってくる、岡山で就職するというのも覚えておいていただきたいと思う。皆さんがこれから活躍することを期待している。